

奥野小学校と牛久第二中学校の

義務教育学校化説明資料

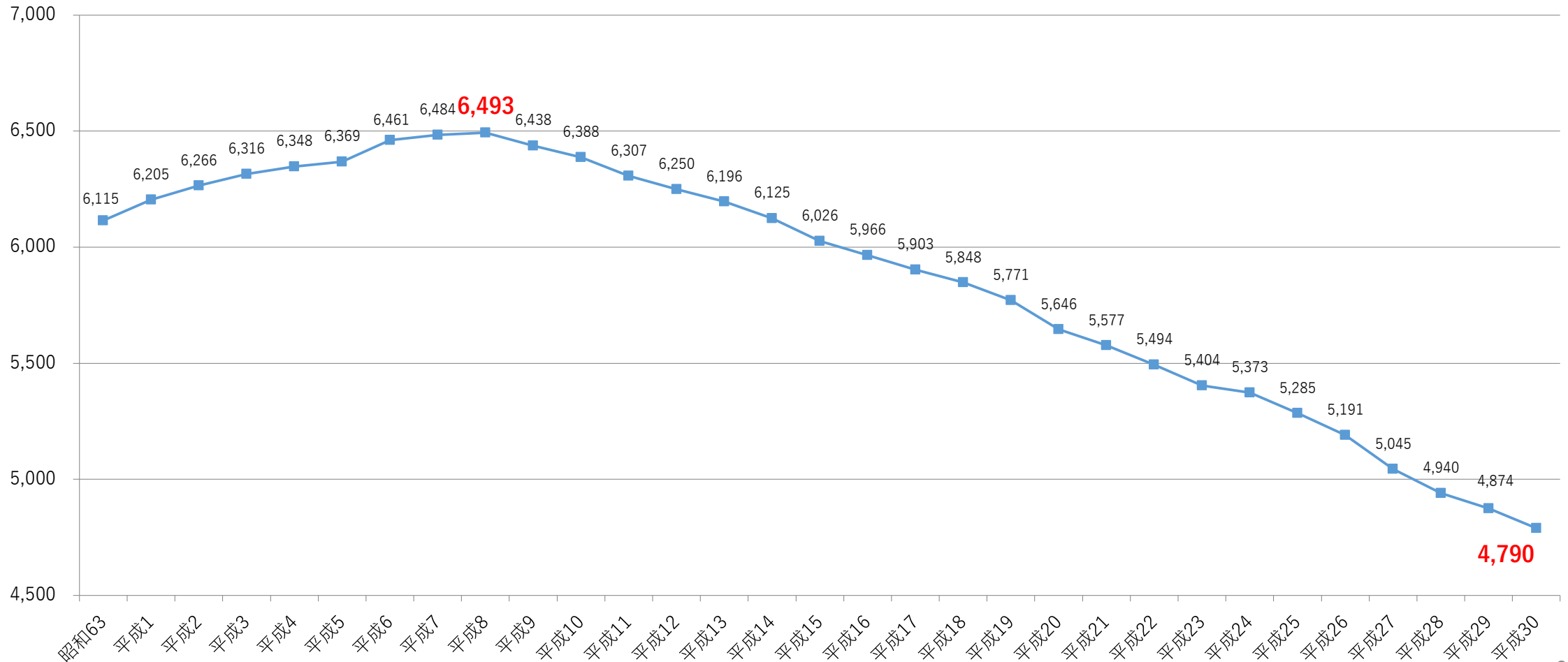
牛久市教育委員会  
教育企画課

# 1. 義務教育学校化の背景

## (1) 奥野地区の人口減少

### 奥野地区の人口の推移

各年4月1日現在

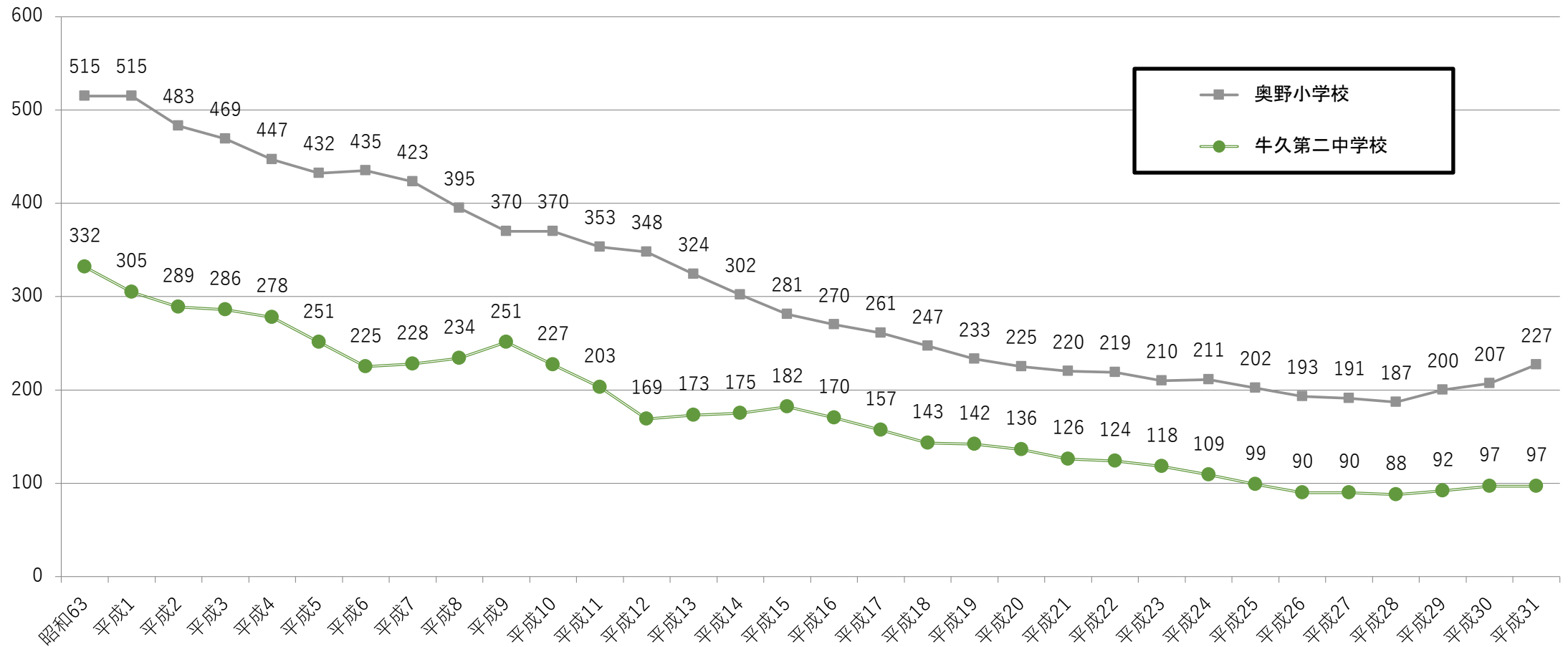


# 1. 義務教育学校化の背景

## (2) 児童生徒数の推移

奥野小学校、牛久第二中学校における児童生徒数の推移

各年5月1日現在

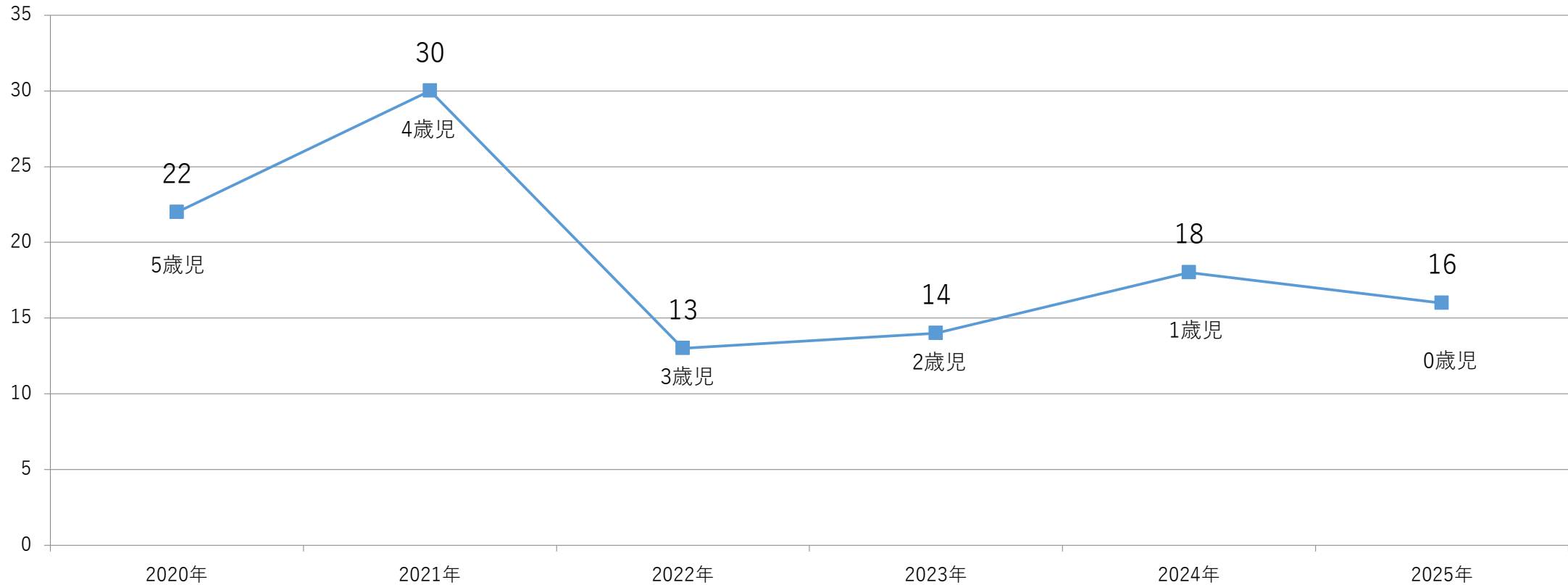


# 1. 義務教育学校化の背景

## (3) 今後の入学予定児童数の推移

奥野小学校区未就学児童数からみる入学予定児童数

平成31年4月1日現在



# 1. 義務教育学校化の背景

(4) 参考までに、茨城県内の小規模公立小中学校の状況

☆ 平成21～30年度までの統合校

小学校 129校 が 51校 に (78校減)

中学校 31校 が 15校 に (16校減)

☆ 平成30年度までに9校の義務教育学校設置

例えば 河内町立かわち学園 4校の統合

つくば市立秀峰筑波義務教育学校 9校の統合

土浦市立新治学園義務教育学校 4校の統合

# 1. 義務教育学校化の背景

## (5) 奥野小学校及び牛久第二中学校の特色ある教育

### 【英語教育】

- ◎ ALT 2 人配置
- ◎ イングリッシュタイム
- ◎ 英語少人数制
- ◎ ブリティッシュヒルズ研修

### 【ESD教育】

- ◎ 地域の人やNPOと奥野の自然を生かした地域学習
  - ・ 歩く会の実施
  - ・ 古民家活用 など

- 県内公立小中学校初のユネスコスクール認定校
- オーストラリアの学校との交流

## (5) 奥野小学校及び牛久第二中学校の特色ある教育 その2



ALT 2 人体制の英語学習



海外の学校とスカイプで



オーストラリアからホームステイ



ブリティッシュヒルズで英語学習



奥野を学ぶ歩く会



地域の人と古民家を活用した学習



子どもたちの学びを支える地域の人たちに文部科学大臣賞受賞

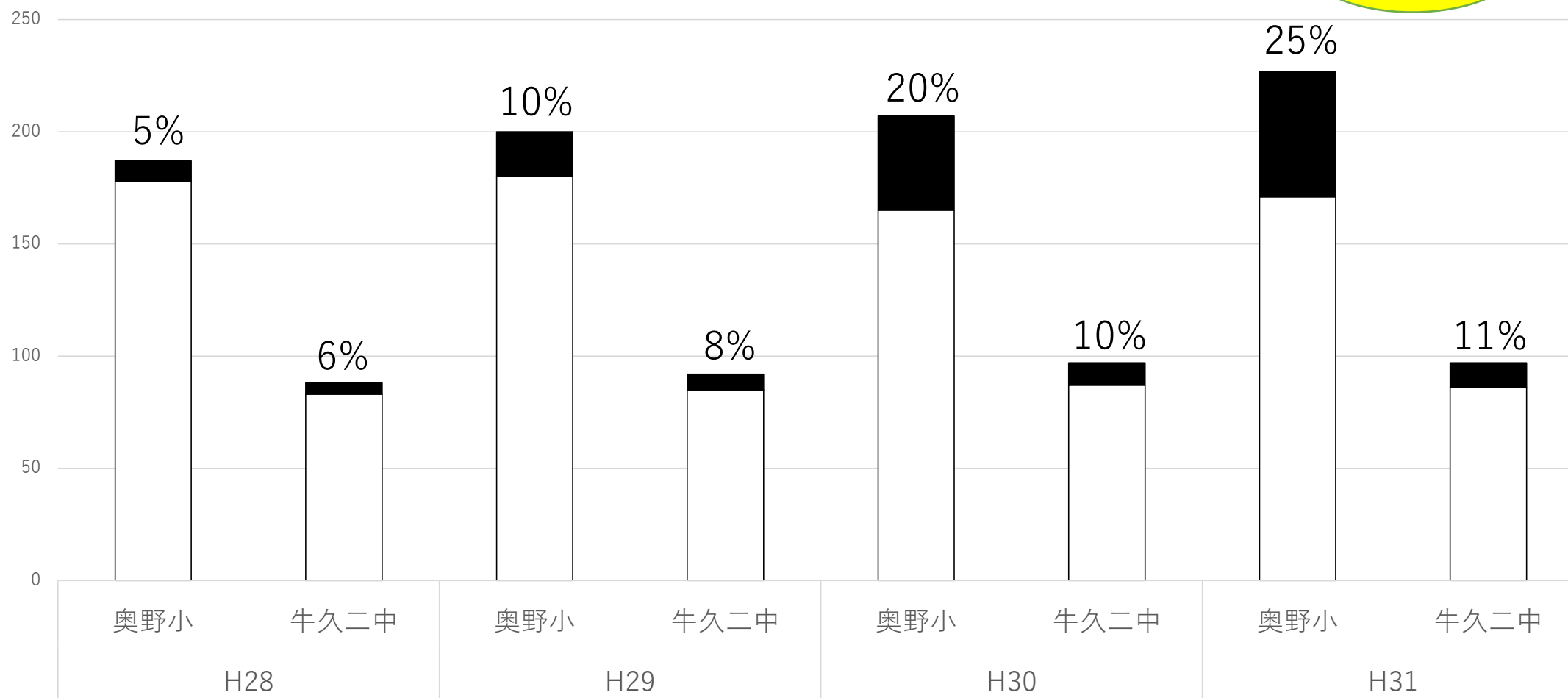


パリのユネスコ本部が県内公立小中学校初のユネスコスクールに認定

# 1. 義務教育学校化の背景

## (6) 小規模特認校制度活用後の児童生徒数

H31は奥野小で25%の児童が、岡田地区や牛久地区から通って来ています。





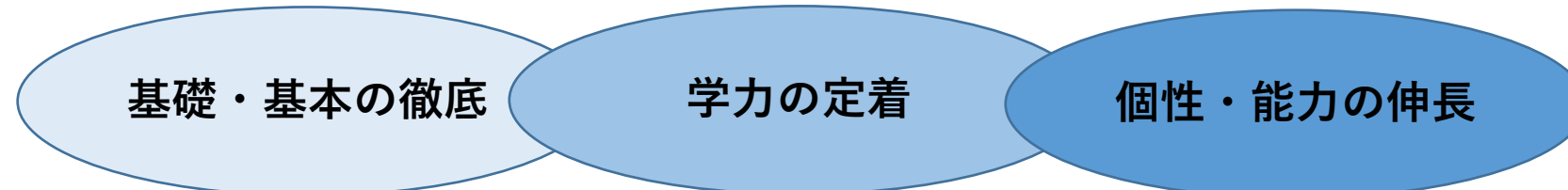
## 2. 義務教育学校とは

【これまでの学校】



義務教育学校とは

一貫教育



義務教育学校	修業年限
	9年
	教育課程
	9年間の教育目標の設定 9年間の系統性を確保した教育課程の編成 小・中の学習指導要領を準用した上で、一貫教育の実施に必要な教育課程の特例の創設

### 3. 二校を義務教育学校にすると

#### 【よくなる点】

#### ○ 9年間を通しての学びが継続による特色ある教育の強化

☆ 例えば：5，6年生が中学校校舎で学ぶとすると

① 5年生から「教科担任制」での学び

② 学習内容の充実

（9年間を見通して、上学年の内容に触れた学習内容も可能）

③ 部活動の活性化（5年生からの部活動参加） など

#### ○ 学校行事を活性化することができる

☆ 例えば：

①運動会 ②文化祭 ③入学式、卒業式 ④各種学習発表会 など

#### ○ 異学年交流学習の活性化と心の教育を推進することができる

☆ 例えば：

①授業での交流 ②休み時間、清掃時間での交流 ③部活動での交流 など

## 【課題と思われる点】

### ○ 校歌・校章・制服等をどうするか

※ 法的根拠はないので、独自に考えることができる

例えば、

- ・スタート時はこれまでのもの（校歌・校章・制服等）を活用し、時間をかけてみんなで協議しながら新しいものを作成していく。
- ・奥野小・二中の校歌・校章を無くすことなく、行事等で今後も活用していく。

### ○ 校舎をどうするか

※ 令和2年4月からは、現在の小学校と中学校の2つの施設を併用しての「分離型の義務教育学校」でスタート

※ できるだけ早い時期での「一体型の義務教育学校」を目指す

- ・「牛久市学校施設長寿命化計画」では、奥野地区の学校施設の在り方について一体型の義務教育学校として整備することが考察されています。